



道

みちもり

MICHIMORI  
TSUSHIN

通信

vol.2 夏号



巻頭随想

「道草が楽しい」 河野裕子

特集 本格始動「道守」

九州各地の道守たち約300人が集い  
「道守九州会議」設立

道を楽しむ「街道を行く」

戦国時代、この街道には幼い姫の  
悲しいドラマがあった。 宮崎 飢肥街道



# 河野

YUKO KAWANO

# 裕子

道を歩いていて何より楽しいのは道草をすること。あ、こんな所に竹垣があつて、たけのこまで生えているなんてこともあれば、れんげ草が畑の畦に咲いていたりして、子供の頃のれんげ摘みを思い出してなつかしくなる。

目的のないぶらぶら歩きの日草のよこひは小さな発見にあるのだろう。

よく見れば薺花さく垣根かな  
 という俳句が松尾芭蕉にあるが、この句ができたとき芭蕉は道草をしていたにちがいない。道草をしていると、ふだん何気なく見すごしていることに、ふと気づくことがある。薺はペンペン草ともよばれ雑草のたぐいの草なのだが、芭蕉はこのとき、薺の可愛さつつまじさを発見したのだろう。

道草といえば、忘れられない思い出がある。

息子が小学校三年生だったころ、わたしは息子が学校から帰ってくるのが毎日のしみだった。八歳の子供ほどおもしろいものはない。毎日何かおみやげ話を持ってきて帰ってくる。子供時代をもう一度やりなおしているようで、その頃のわたしは人生が二度も楽しめると思っていた。

その日も門の所にたつて息子が帰ってくるのを見てみると、小路に入ったままなかなか出てこない。当時

## 道草が楽しい

のわたしの家は、幾節もの小路が等間隔に並んでいる所にあった。小路から通りに出てきた息子はまた次ぎの小路に入りこむ。いったい何をしているのだろう。これを何回か繰り返してやると帰ってきたのを見ると、手に色々な色のチョークを持って、家の門に→(矢印)を描いている。あんた何してきたのと言うと、道やら木やら石ころやらに矢印を描いてきたという。

これはおもしろい。わたしは息子が描いた→を逆に辿って歩いてみることにした。→はどこにもあった。電信柱、堀、溝、道の端っこ、おおばこの葉っぱ、木切れ、家の壁などなど目につく限りのところに、チョークの→が黄いろや緑でついている。息子がなぜここで立ちどまったか、何を考えて色を変えたか、描く高さを工夫したのか、わたしなりに推測してどんどん歩いていく。どこまでこの→はつづくのか。子供時代の探検のワクワク感がいきいきと甦ってくる。

→はとうとう小学校の校門に続き、校門をくぐって校庭にでた。はあ、淳はここから→を始めたのかと思つて更にすすむと、校庭の桜の木の下に根っこからチョークの→は始まっていた。八歳の淳はチョークで家までの道々にしるしをつけて帰ってきたのだ。寄り道をすることは楽しい。おとなになっても、子供の頃はなおさら。

### 河野裕子プロフィール

1946年熊本生まれ。高校時代「コスモス短歌会」入会。京都女子大学在学中に第15回角川短歌賞受賞。1972年、第1歌集「森のやうに」に「塔」選者。NHK学園などの選者。



## 「道守九州会議」 設立趣旨

私たちに忘れ物がある。「道は行政の責任」と目宅前のごみや雑草、汚れなどにさえ知らん顔。空き缶どころか家庭ごみまでポイ捨て。「道普請」の心は「一体どこへ」。

心を痛め、道の美化や植樹・植栽などに取り組み人々が増えている。実践者を中心に「道を考えよう」という機運が高まりました。「道守九州会議」設立の呼びかけとなった。

道守。その由来は万葉の昔にさかのぼる。道を守り旅人の飢えと渇きを潤す果樹を道に植えたという。現代の道守は、住民と行政とが協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、一歩踏み出そう。

表紙画:久富 正美  
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

裏表紙短歌:権藤美津子  
1925年長崎県生まれ。北九州歌人協会会員。「道守九州会議」発足記念短歌優秀歌に選出。2004年北九州芸術祭短歌大会互選賞第一位受賞。



## CONTENTS

- 1 巻頭随想 「道草が楽しい」 河野裕子
- 2 わたしの好きな道 柳川「白秋道路」 山田三代子
- 3 道守 本格始動 「道守九州会議」 設立総会  
ボランティア活動パネル展  
トークセッション  
九州各県「道守会議」発足
- 8 道守たちのトピックス 「道守活動、道の動きアラカルト」
- 9 私たちの道守活動「ボランティア・グループの活動紹介」
- 12 浪漫を訪ねて 「土木遺産・出島橋」 岡林隆敏
- 13 街道を行く 「姫が通った餓肥街道」 宮崎県日南市
- 14 海外道事情 「大人の国がめざす…オランダ」 井上信昭
- 15 ご存知ですか 「無電柱化推進・ガードレールの色変更」
- 16 道の声・人の声 「投稿・道守短歌の紹介」
- 17 道守九州会議からのお知らせ 「道の駅で活動パネル展」





## 柳川「白秋道路」

### 郷愁と未来が 行き交う

山田三代子



ゆったりと川下りのどんこ舟が行き交う水郷・柳川。堀割沿いの「白秋道路」が私は好きだ。百年ほど前、北原白秋がここを通って学校に通ったという。

観光地となった柳川。「白秋道路」は車の賑わいや騒音を避けたしつらえとなっていて、川、木々、緑、花が時間を止めるかのよう。あたりを歩くと、しじまが染みて、思わず深々と息を吸い込んでしまう。

春から一気に初夏へ。こんな季節は堀端の柳たちが新芽をつけてしだれ、ゆらゆらと水面に映る。真っ赤なツツジが緑に映え、一方で道際からは萌黄の新葉が目立つ。追いかけるように小さな白い花が続く。棘はいつも痛そう。コントラストに魅せられて白秋は「からたちの花」の詩を作ったのか。遠くでカササギの鳴き声がする、カチカチと。私が小学校に通った道はここから少し離れていて、当時

は田んぼの中の小道。やはり堀割沿いで、からたちも柳もあって、今よりたくましかった。蛇が道幅いっぱい昼寝をして通せんぼした。怖くて立ちすくみ「誰か来てくれないか」と半べそかいた。その道もいまは乾いたアスファルトに変身している。

昔のまま土むきだし、少してこぼこだったら、いまのように車は疾走できないだろうし、歩きながら携帯メールなんて無理だね。道端の、ひしゃげたベトポトルが目にとまった。

「白秋道路」に足が向くのは子供の頃へのノスタルジアなのかもしれない。道の便利さと引きかえに何かを失った。蛇と、ひしゃげたベトポトル。その落差のなかに、この先の道作りのヒントがあるのかもしれない。道守の役目があるのだろう、きっと。

- 福岡**  
道守九州会議 発足  
●設立総会報告  
(体制・道守の誓い・挨拶)  
●トークセッション  
●大石久和技監基調講演  
●宗茂氏特別講演  
暮らしと交通シンポ
- 佐賀**  
シュガーロード  
フェスタ開催
- 長崎**  
女性が語る道づくり  
まちづくり開催
- 大分**  
道守大分会議発足
- 熊本**  
道守くまもと会議発足

## 特集 本格始動 「道守」

道の清掃や美化、植樹・植栽、道の遊びや歴史の継承など道を舞台にさまざまな活動に取り組む人たちのネットワーク「道守九州会議」。全国的にもユニークな組織の誕生をきっかけに「道守くまもと会議」と「道守大分会議」が相次いで発足、九州各地の多様な道守活動が加速している。交流・連携・学習の機運が高まる一方で、地道な道守活動が日々、各地で続いている。名もない活動も多い。道守通信2号の特集は「道守始動・多彩に」―その活動ぶりを紹介する。

### 「道守九州会議」設立総会に 300人参加

「道守九州会議」設立総会は2月25日、九州各地の道守たち約300人が福岡市のイムズホールに集まり行われた。1年有余、各地で開かれた道論議が生んだ全国でもユニークな組織だ。

### インターネット中継や パネル展も

「道守九州会議」の誕生を、道守たちは自らの活動や体験を語り（トークセッション）、報告し（パネル展示）、交流しながら祝った。道への思いや道守活動を称える公募短歌の優秀作も発表された。

総会やトークセッションの様子はインターネットでライブ中継された。総会後の懇親会場の一角には、「1分間スピーチ」コーナーが設けられ、参加した道守たちがライブカメラを通してメッセージを送った。ライブ中継のダイジェスト版動画は現在も「道守」ホームページ発信中。



プロフィール

福岡県柳川市生まれ。海外旅行ツアーコンダクターとして世界各地を巡った経験を生かし、現在文化サークルで「旅の英会話」を教える。柳川市が公募し行政と市民がともに話し合った「21世紀活性化委員会」の座長を務めた。「道守九州会議」の福岡県地区世話人。



# 人と道、その新しい縁—今求められる道守の心

道守九州会議設立総会を記念し、同じ会場で「人と道、その新しい縁—今求められる道守の心」をテーマにトークセッションがあった。記念講演に続き、「地域や暮らしのために道を美しくするという道守の心をどう広げていくか」（玉川孝道コーディネーター）の呼び掛けに壇上パネリスト・九州各地の道守9人と会場的一般参加者から活発な意見が出された。



## 「ゴミを捨てるのはカッコ悪い」

NPOグリーンバード  
木下真裕さん  
(福岡市)



天神・大名地区は私が育った街ですが、いづからこんなに汚くなったのでしょうか。ごみを捨つても、捨つてもなくならない。街中でたばこを吸い、吸い殻をポイ捨てするのが若者の一種のステータスになっていた時期がありました。こういう一人よがりな個人主義によって今、街は非常に暗く、活気が無くなった。僕たちは自分の街を、自分の手できれいになりたい。それは押し付けや強制ではダメだということを今、感じています。僕たちの活動で、ごみを捨てるのはカッコ悪いことと思ってくれたらいい。

## 「便利な道がゴミを運ぶ」

北川町の道づくりを考える女性の会  
矢野初美さん  
(宮崎県)



宮崎県北川町は豊かな自然とホタルの里

ばかりの男性など、エネルギーがいつぱい。地域から考える街づくりのプロジェクトなどを広げていきたいと思っています。

## 「政策だけではダメ」

九州大学名誉教授  
道守九州会議代表世話人  
樗木武さん  
(福岡県)



条例などで罰則を定めて、公共心やマナーを守らせようという動きがあります。すでに多くの自治体で条例を設けているけれども、ポイ捨てがなくならないのはどういふわけでしょうか。政策だけではうまくいきません。大事な教育であり、行政も市民も自ら率先してやるような仕組み・制度だと思っています。

## 「女性、生活者の視点が必要」

ロードネット佐賀  
北島悦子さん  
(佐賀県)



道づくりについて、女性にはあまり知らざれることがあります。行政や自治会の役員さんから「道路工事が始まるので注意してください」と言われるくらい。それで、主に有明海沿岸道路について、県内や熊本的女性たちの話を聞いたところ、いろいろな意見が出てきました。農産物直売所を営む農家の女性たちは「お客さんが増えるかもしれないが、道が直売所のそばを通らなかつたらどうなるの？」という期待と不安の声がありました。道を造るのは行政だけではありません。また、男性だけで語る問題でもありません。私たち

## 「子どもたちと一緒に」

八嘉校区まちづくり委員会  
廣田幹人さん  
(熊本県)



私たちは「先人から受け継いだ故郷の自然や歴史を、きれいなまちで子どもたちに託そう」という気持ちで八嘉花いっぱい運動に取り組んでいます。ポイントではできるだけ子どもたちと一緒に、育苗とか清掃とか、植え付けをやること。一人でやるのは難しいが、何人かでやれば笑顔がこぼれる。そしてこうやって道がきれいになると、ごみや空き缶のポイ捨てが少なくなってきました。

## 「苦勞した分だけ愛着心」

鹿屋市札元商工親睦会  
山内芳一さん  
(鹿児島県)



市内を通る国道220号が四車線化した際、緑地が取り残され、草は生え放題、ゴミは散らかし放題、空き缶は捨て放題というような状況が何年も続き、大隅河川国道事務所が「あそこに花を植えてみませんか」と相談に来られた。だったら「バラを植えてほしい」と提案しました。バラは育てるのがとても難しく、苦勞した分だけみんなに愛着心が生まれると思ったのです。町内にある企業や、老人クラブなども巻き込んで「ばら通り220協力会」を立ち上げ、バラ作りの名人に、土づくりから教えてもらいました。

## 基調講演 人・くらしと道

### 「公」環境の道を地域で支えて

国土交通省技監 大石 久和氏



道路の本質は「空間」と「ネットワーク」の機能に尽きます。地下には電気、ガスなどのライフラインが埋められています。また、幹線道路沿いに高いビルが建ち並んでいるのは、道路空間を容積率として使っているからです。路上に緑があれば環境空間になるし、ジョギングをすれば健康を増進する空間、火災を食い止める防災空間でもある。快適な市民生活を築く上で、道路は重要な役割を担っています。ネットワークは、地域と地域を結ぶとともに、それぞれの地域が担っている役割を補い合う機能があります。緊急時に「施設の整った隣の病院に行ける」とか「全国各地のいろいろな農産物が、自分の町で手に入る」など、地域をつなげ、物を流通させる。道路は必ずしも、車の交通量だけで議論はできないのです。

今、「道をみんなで美しくしよう」という動きが各地域で起こっています。国土交通省もボランティア・サポートプログラムなどを用意し、地域の人たちの活動を応援しています。道は、私たちが最初に出会う公共、つまり「公」です。私たちは、先人から受け継いだものを、次代により良いものとして引き継ぐ責任がある。今、次の世代のための装置作りについて、私たちに何ができるのかを考えてはならないと思います。

## 「B面社会の大切さ」

NPO男女・子育て環境改善研究所  
濱砂圭子さん  
(福岡県)



として有名です。しかし、国道326号が全面開通して町へのアクセスが便利になった半面、よそからやってきて、家電製品や産業廃棄物の不法投棄をするケースが増えています。国道沿いのパーキングエリアに、ごみを平気で捨てる。こういう状況を何とかしようと、町の女性たちが立ち上がりました。清掃活動をやり、道の脇に花を植え、きれいな北川町にして、それを見てもらうと励んでいます。美しい町を見てももらえたら、ごみを捨てる気は起こらないと思います。私たちの気持ちを、よそから来られる人たちも分かってくれればいいですね。

私は、社会には、仕事優先、経済効率優先型のA面社会と、地域社会というB面社会があると思います。無償のボランティアで地域をきっちり支えている人がいるからこそ、A面が成り立っている。これまでの街づくりは、A面社会の若者や健康者を対象にしてきた。しかし生活の場である街は、まさにB面社会。社会全体の意識改革が必要です。今、地域の中には若い主婦やリタイアした

街を美しく彩るバラの道は、行政と市民の共同作業の証し。「このバラだけは絶対に枯らしちゃいかん」という思いで、手入りに励んでいます。

## 「グループを挙げて道を守る」

イオン九州パークプレイス大分店  
森山節夫さん  
(天分県)



商いも大事ですが、道路も大事。なぜならば、ご来店のお客さまは、必ず道路を利用されています。お客さまが気持ちよく、当店に来ていただくために、道路の清掃は欠かせません。毎月十一日のイオン・デーを社会貢献の日と決めて、各店舗ごとに従業員やテナントの人たちも一緒に活動しています。また、市民ボランティアに備品を寄付するかたちで応援し、子どもたちの環

## 「ポイ捨てはしないので」

ポイイスカウト  
東彼杵第二団  
山口哲也君  
(長崎県)



以前は駅にごみ箱が設置されていて、そこに家庭のごみを捨てる人などもいて、ごみが散乱していました。今はごみ箱が取り除かれて、大きなごみはなくなりまし。でも小さなごみのポイ捨てはなくなりません。ごみのお大半を占めているのはたばこの吸い殻です。最近五回で集まった吸い殻の数は千二百七十本。これだけ捨てられていたら、僕らもいい気持ちはしません。喫煙者は、もっと気をつけてほしい。

## 特別講演・走ってきた道

### 毎朝掃除に思いやり実感

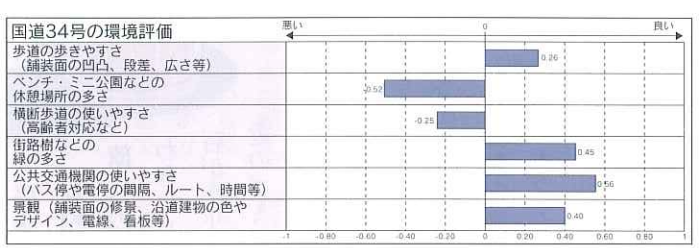
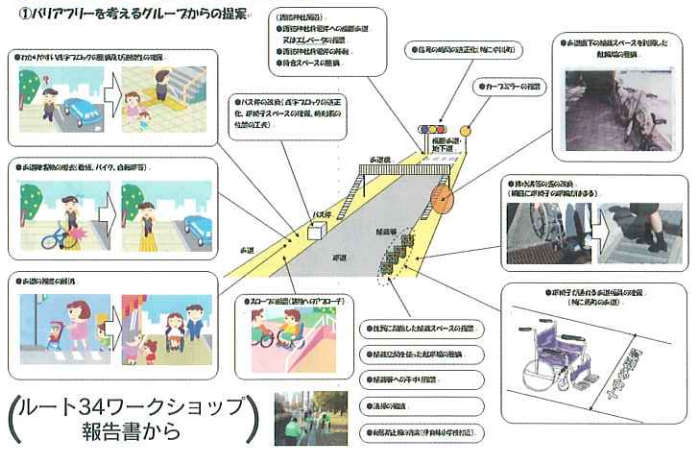
旭化成陸上部監督 宗 茂氏



サイクリングやジョギング、散歩などができる松林の練習コースを延岡市と一緒に計画してつくったところ、その道を毎朝、掃除してくれる人たちが現れました。その道で私たちは年二十日ぐらいしか練習しないのに、「宗さんたちのために」と一生懸命、道をきれいにしてくれている。安心して走ることに集中できる道には、人の思いやりが息づいています。私たちが草刈りなどを手伝うことがあります。ランナーは硬い道は走れないので、くわで練習コースを耕すこともあります。歩くには硬い道がいい。しかし硬いと、ひざや腰を痛めてしまう。「柔らかな道は歩きにくいですが、ひざや腰を鍛えてくれますよ。そんなことを延岡の人たちと話しながら道を作っています。道は人が手を入れ、管理することで、自然が息づく気持ちのいい道になっていきます。



第1回～第2回ワークショップの結果をめぐり



「側溝のふたは杖がはさまらないように」など身近な要望から「道づくりに住民の声を聞く制度を」など道路行政の変革を求める声まで多彩な意見が交わされた。またワークショップの報告は詳細な調査結果や図入りの提言など64ページにわたる。「長崎の道は女性が変わる」「民間・行政が協働の道づくり」を強く内外にアピールした。

長崎のカタテラや佐賀の羊羹を育てた長崎街道は「砂糖の道」と呼ばれた。歴史を検証しながらまちづくりを考える「シユガーロード・フェスタin佐賀」が3月25日、佐賀市交流センターで開かれ、約100人が参加した。

主催は活気ある中心市街地づくり研究会(三原ユキ江会長)。国土交通省が後援し、全国街道交流会議の藤本貴也代表幹事(同省技術調査官)の司会で、地元の村岡総本

**別大国道6車線化記念 シンデレラ・シンポジウム**

大分市と別府市を結ぶ大動脈・別大国道(国道10号)の6車線化(一部を除く)を記念し7月3日(土)午後、別府湾に臨む大分市田ノ浦の「FOUR SEASONS」で開かれる。女性の視点で道づくりを考える。4日には「アフターシンポジウム」が湯布院町で開かれる。詳しくは道守大分会議ホームページ

http://www.coara.or.jp/michimori/otia/

**「女性が語る道づくり・まちづくり」長崎で**

ルート34の調査と連動

道の清掃や美化、道の植樹・植栽など道守活動とまちづくりを女性たちが追求する「女性が語る道づくり・まちづくり」トークセッションが3月27日、長崎市のホテルで開かれた。引き続き「ルート34ワークショップ」の1年にわたる調査報告と提言が発表された。

女性たちによる討論の主催者は、「ルート34ワークショップ」実行委。長崎市の中心部を走る国道34号のあり方などを考える組織で、昨年6月に発足。県庁から馬町、馬町から蛸茶屋までの大掛かりな現地聞き

取り調査のほかワークショップを開いて課題や提言をまとめた。

今回のトークセッションはいわばその集大成イベントで、「道づくり・まちづくりに女性が参加を」の意味を込め、パネリストは阿野史子・ルート34WS実行委員長ら女性ばかり6人が務めた。国土交通省から佐藤信秋・道路局長がアドバイザーとして参加した。

**「暮らしと交通を考えるシンポ」福岡で**

諸外国の交通施策も学ぶ

様々な視点から地域づくりに取り組む「NPOタウン・コンパス」が主催するシンポジウムが3月19日に開かれた。テーマは昨年に引き続き「暮らしと交通」。

(財)福岡都市科学研究所の後藤太一氏、福岡大学の井上信昭氏、(財)計量計画研究所の牧村和彦氏の3名のパネリストが、ポルトランド(アメリカ)、オランダ、パリス(フランス)の3都市の交通施策を紹介。聴講者も交えて、福岡市が抱える交通問題の改善策を探る話し合いが熱く展開された。

砂糖の甘味が日本で広く知られるようになったのは「南蛮文化」伝来以後とされる。鎖国時代、世界に開いた小さな窓、長崎・出島から輸入された砂糖は「白い宝石」と珍重され、地の利を得た肥前は全国に先駆けた菓子文化が生まれ、長崎街道はそれを伝えたという。

資料施設もつくり菓子文化の検証を続けている村岡安廣社長は「肥前は菓子で栄え、街道沿いには大きな文化財産がある。地域のマンパワーを引き出し、観光力を高めよう」と述べた。

道守くまもと会議発足式



「主役は市民」「市民主体で活動する」ことが確認され、各参加団体やメンバーが道に関する情報交換・発信などを通じて道への関心や愛護の心を育て「市民

と行政が協働で道守事業を推進することなどを決定した。

世話役に民間4団体▼八嘉校区まちづくり委員会▼道の駅「鹿北」小栗郷▼くまもと歴史街道交流会▼熊本の道を語る女性の会、事務局長に中村幸子さん(熊本県の道を語る女性の会)が選ばれ、オブザーバーとして国土交通省熊本河川国道事務所と熊本県が参加する。

「道守くまもと会議」の特徴は、先行して「くまもと道のフォーラム」基盤があったため参加団体やメンバーが多様なこと。バリアフリーからユニバーサルデザイン、高齢者対策や子育てウオーグ、景観ウォッチングなどの多彩な活動を展開予定。

**「道守くまもと会議」発足**

多彩な活動と連携力

道に関するさまざまな活動が盛んな熊本県。「道守九州会議」の発足を受け3月11日、いち早く「道守くまもと会議」が発足した。

母体となったのは、道づくり意見隊約200団体で組織された県内最大のネットワーク「くまもと道のフォーラム」。道の清掃・美化活動、歴史や地域づくりをテーマに活動しているNPOや市民団体、個人、企業などに広く参加を呼びかけた。

発足式には約300人が参加、「2003くまもと道のフォーラム」総会に続いて行われ、潮谷・熊本県知事も駆けつけ、晴れやかな出発となった。



連絡先は「熊本の道を語る女性の会」(htol213@bronze.ocn.ne.jp) TEL096-387-6671 FAX096-384-4898



連絡先は 国立大分高専都市システム工学科 計画・デザイン研究室 TEL・FAX 097-552-7627



**道守大分会議も誕生**

「豊の国」づくりにも 役立とう、と20団体参加

「道守」大分ブロック意見交換会が3月25日、国土交通省大分河川国道事務所で開催、大分で道守活動に取り組んでいる各種20団体から42人と、国土交通省、大分県、日田市の行政関係者が参加し、活動状況や問題点など意見を交換した。

この意見交換のなかで、「道守九州会議」とも連携を図りながら、より地域に根ざした道守の情報交流や情報発信などを行おうと、「道守大分会議」発足が決まった。

「道守大分会議」は、いっそう情報交流や情報発信などを強め、道守活動や道守の意識を広げ、大分の地域づくりや暮らしの改善などに寄与することが目標で、大分の道守の輪をさらに広げ、郷土の「豊の国」

づくりにも役立とう、と参加者の意見がまとまった。

また、代表世話人には桑野和泉さん(ゆふいんFAMILY)、世話人に神足博美さん(大分合同新聞社)、亀野辰三さん(国立大分高等専門学校教授)、森山節夫さん(イオン九州(株)パークプレイス大分店、藤澤真一さん(大分市顕徳町デウスクラブ)の4人が決まり、事務局は国立大分高専都市システム工学科の亀野辰三研究室におくことになった。



道をテーマに連携と、論議と九州各県に広がる



漂着流木で島の道にベンチ



北九州市若松区のNP法人「まちのカルシウム工房」が「藍島変身五カ年計画」をまとめ、「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

「漂着流木で来島者用ベンチを」など、新年度から道の美化活動、花いっぱい運動、案内板・マップ作製などに取り組む。

私たちが 道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために九州各地の道守会員が取り組んでいる。スタイルもアイデアもさまざまな活動を紹介いたします。

地域報告 大分編

集えば「道は出合いの場」と実感  
道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。

道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。

道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。

道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。

道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。

道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。



道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。

道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。

道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。

道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。



道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。

道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。

道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。

道守大分会議は、楽しい。ワイワイガヤガヤ、時間はあっという間に過ぎていく、元気になる会。道を守る人たちだから。



「みゼロ」青春探検隊まえばる (福岡)

道路はみんなの財産。  
協働の環で守り次の世代へ。



「道路はみんなの財産だ」。そんな思いから、私たちのみゼロ運動は始まりました。平成10年に始まった活動の主な現場は国道202号線沿いのボランティア・サポートプログラムと協定。以降、高田・萩浦、周船寺と協定地域の範囲を広げてきました。

「道守九州会議」を通して平成15年度にはイオン九州(株)マックスバリュ九州周船寺西支店のみなさんと出会い、連携活動もスタート。毎月11日(いい日)に前原市高田と福岡市西区周船寺地域でクリーンアップ作戦を展開しています。道づくりは、人づくり。人づくりは国づくりです。できる事を無理なく、楽しく、イキイキと。ひとりひとりの小さな行動を大事に協働の環を広げながら、より良い道路環境をここ「糸島」から次の世代へと繋いでいきます。



そつじの会事務局 (佐賀)

公共度指数ナンバーワンの道を「おかげさま」の心で美しく。



みんなのお金でできた道は地域と地域とを繋ぎ、人と人をつなぐことができます。文化や情報、心までも運んでくれる。すべての人にとってなくてはならない存在であり、公共度指数ナンバーワンと言っているでしょう。

日常的に過ごす場所だからこそ気持ちよく過ごせる所なくてはならない。私たちが行っているゴミの分別収集は、道に「お蔭さまです」という感謝をお返ししたいと始めた活動です。

月に一度の収集では毎回トラック一杯分のゴミが集まりますが、これもすべて大事な資源。全員、快い汗をかいています。道沿いの花壇に季節の花を植える作業にも毎回多くの会員が参加。多久市の横尾市長も会員で、市民はもちろん、市長参加型の活動が誇りです。



聖和女子学院高校 (長崎)

真の共生社会をめざした高校生による地域貢献。



平成14年度にエネルギー環境教育実践校として認定を受けた本校では、全校生徒で国道の掃除を始めました。清掃をしていると、地域の方々から温かい感謝の言葉をかけていただきます。集まった多くのゴミに達成感を覚えると同時に、道端にこれだけのゴミが落ちていること自体に疑問を感じるようになりました。今、学校では寮から出た日々の生ゴミを土に戻し、花や野菜を育てています。今年度は学校で作った生ゴミ堆肥を利用して国道に花を育てる計画を立てています。

道路はみんなの財産。すべての人が気持ちよく、生活できる真の共生社会の実現を目指して、今後も活動を続けていきたいと思います。



城見町通りタイ(隊) (熊本)

住民みんなで育てていく、  
明治以来の由緒あるわが町。

平成10年の夏過ぎ、ふと気づくとゼンリンの地図からも通りの名前が消えていました。明治以来の由緒ある通り。城見町の有志が集まり、町の再生を決意しました。



まず町に空き缶回収機を設置。投缶者には商店街のサービス券を渡すなどして、コミュニケーションあるリサイクルを進めています。また町民ひとりひとりがデッキブラシ一本で道を掃除する習慣も定着しました。平成12年度には熊本大学の学生と協働でイベントを開催。「KSO14000」という地域版の環境基準を掲げ、地域の活性をめざした新たなシステムづくりにも取り組み続けています。

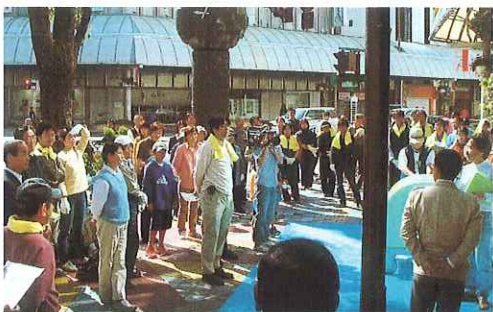


町は生き物。人が育てるものです。現在も「町とは」をテーマに防災や商品開発、国際交流など様々な視点から商店街の秘められたポテンシャルを掘り起こし中です。

橘通フラワーロード推進協議会 (宮崎)

道々を季節の花々で彩り  
街そのものをひとつの公園に

四季折々の花で彩った橘通を宮崎の顔に。行政と市民が協働で「人に優しいまちづくり」を進めて4年になります。



めざしているのは街の公園化です。今年のみどりの日にはバス停や街路灯、建物の軒先を鮮やかな花々でデコレーション。年に4回ほど植え替えを行う橘通の寄せ植えには市民のデザイン画も反映させました。景観が美しくなるほどにゴミが少なくなったのはうれしい驚きでしたね。また、花を通して道を行き交う人とボランティアとの間に会話が生まれ、住民の間に心のつながりが生まれたのも大きな成果です。



現在は10月の「緑の月間」を目標に300名の市民と協力しながら新たな公園づくりを協議中。さらに魅力的に変身する街の表情にご期待ください。

武町内会 (鹿児島)

新幹線の開通や開発にわく  
街の活気を地域ぐるみで支える。

九州新幹線が開通して鹿児島市民の意識も変わりました。今春大きく様変わりしたJR鹿児島中央駅の周辺から道路をきれいにしようという一層盛り上がりがありました。



私たちは早朝、道に捨てられたゴミの収集や花壇の除草作業を行っています。駅周辺に増えた放置自転車問題は鹿児島市の交通安全課とも協力して地元の中学生や高校生に正しい自転車の乗り方と駐輪マナーを指導するなど、親睦を深めながらのナーアップをめざしています。



武・武岡線。新幹線の開業を機に道路も生まれ変わり、地域は新たな活気に包まれています。にぎわいのある街づくりや今後の発展を支えるのは、周辺の企業や地域ぐるみの活動だと信じています。





郷土史家  
北郷町文化財保存調査委員長  
本山隆義さん



# 歴史を学ぶ 道を守る

北郷町に住む郷土史家 本山隆義さんは、戦国末期から、江戸時代を通じて、多くの旅人が歩いた旧道に魅せられ、その保存に努めてきました。杉木立の中を歩きながら、本山さ



飢肥城 天正16年から280年間、明治初期まで伊東家居城。大手門は樹齢百年をこす飢肥杉を用いて昭和53年（1978年）7月に復元された。



山坂屋跡 城下への侵入を防ぐため設けられた最初の防衛拠点と考えられる。飢肥藩の関所跡。後年は、番所となり、参勤交代の休憩所の役割も果たした。

ていける高台は、街道から最後に飢肥城下を見下ろすことができる最後の場所。姫もまた、慣れ親しんだ飢肥城下を感慨とともに眺めたことでしょう。  
翌年、関が原の戦いで、東軍となった伊東家の配下、掃部介は、西軍に属する宮崎城を攻め落とします。ところが、その領主は、遠

花立公園から飢肥・日南市を望む  
北へ上る旅人が、街道から最後に飢肥城下を見おろせた。標高489mの高台は、現在公園として整備され、春には一帯がピンク色に染まる。桜の満開時にはライトアップもされる。



く関が原の地で合戦前日東軍に寝返っていたのです。結果的に味方の城を攻めたとして、掃部介は家康の怒りを買ひ、切腹を命ぜられます。  
雪江は、実家の計らいで、山坂屋まで連れ戻されますが、供の一人から真相を聞き、そのまま清武に引き返すと夫の後を追いました。飢肥杉に覆われた街道を一度も往復することなく散っていった一つの命。幼い姫が見たそのままの景色が今も残されているのです。



掃部介・雪江の墓 掃部介・雪江の墓：清武にある二人の墓石。雪江の名が右に記されており、貞女の鑑として彼女が遇されてきたことが偲ばれる。



写真提供：日南市教育委員会

## 街道秘話 姫が通った 飢肥街道

宮崎

戦国時代を通じて、宿敵島津家とその覇権が争われた飢肥城は、秀吉の九州平定に伴い、伊東家の居城となります。その領地飢肥藩5万1千石は、中央を東西に走る山々によって分割されていました。  
初代藩主祐兵は、北部清武まで約40キロ、ほぼ一直線に走る飢肥街道を開きました。その道は、少しずつルートを変えながら、現在も受け継がれています。

関所へと続く街道 4百年の時を経て尚、当時の姿をそのまま残している貴重な街道は、山坂屋跡を挟んでおよそ5キロ。当時の旅人の気分そのままに歩くことができる。



んは、関が原の前年、この街道を通った一人の姫に思いを馳せます。豊後大友家の血を引き、伊東家家老の養女となっていた姫の名は雪江。14歳の彼女は、藩主の信任厚い清武地頭、稲津掃部介重正に嫁ぐため、街道を北へ登りました。現在、花立公園として整備され



# 世紀を超えて残る繊細な鉄の橋 出島橋 (長崎市)



側面から見た出島橋  
繊細なピントラス構造と部材を結合する大きなボルトが見える



岡林 隆敏氏  
長崎大学教授  
(工学部社会開発工学科)

出島の東側に、中島川を渡る鉄製の「出島橋」(橋長36.7m、幅員5.5m)が架かっている。この橋は、供用されている日本の道路橋の中で最も古く、現在、114歳で、日々、日本の道路橋の長寿記録を更新している。明治17年(1884)に始まる中島川変流行工事の際、中島川の河口に明治23年(1890)、アメリカから輸入された錬鉄製の「新川口橋」が架設された。その後、明治43年(1910)になって、現在の場所に移設された。そのために、右岸側の橋名板に「明治四十三年架」と記されている。

現在の橋と比べると華奢で、構造部材は大きなボルトで結合され、小さな部材はリベットで繋がれた、プラットトラス橋である。橋門の唐草模様の装飾、蝙蝠のような形をした橋名板、透けて見えるレースのように細い材料から構成された部材など、古典的な橋梁様式を色濃く残している。長崎市が誇る近代化遺産の一つである。



中島川河口の新川口橋  
(現在の出島橋)後に現在の出島橋になる  
明治23年(1890)架設直後の新川口橋

年(1878)に建設された旧出島神学校が見え、いずれも淡いブルーで塗られた橋と教会の川縁の風景は、繁栄した明治中期の長崎市の歴史的景観を残す唯一の場所になっている。世紀を越え、原爆の爆風にも耐えて残った「出島橋」。夜にはライトアップされ、長崎の人から「鉄の橋」と言われて親しまれている。平成15年(2003)11月には土木学会より選奨土木遺産に指定された。



出島橋の正面  
橋門の唐草模様の装飾や橋名板のデザイン、時代の様式が見える





# 大人の国がめざす自転車中心の国づくり、まちづくり オランダ



真ん中が自転車道、歩道は右の木々の中



福岡大学 教授  
井上 信昭氏

同性婚や安楽死を認める法律を持ち、一定の条件下でのドラッグを容認するなどオランダは、今はやりの「自己責任」という視点からすると、いかにも大人の国に見える。そのオランダを交通という切り口で見ると、まぎれもなく自転車の国である。その程度を理解するには、自転車道路の延長や都市交通での自転車分担率を彼我の間で比較するのが手っ取り早い。国土面積378000平方キロメートルの我が国全体の自転車道路延長が6400kmであるのに対し、オランダは9分の1の国土面積に14500kmの延長をもつ。あるいは、人口規模が同じくらいの熊本市とアムステルダム市を比較すると、自転車の分担率が前者12%に対し後者24%、一方でマイカーの分担率は59%に対して40%。彼我の差は、とても大きくない。

こうした自転車の国実現への過程を振り返ると、そこには環境を大切にすることを国としてのオランダの姿が見えてくる。1990年に策定された政府の第2次交通運輸計画の



自転車優先、自動車は一端停止の道路



アムステルダム中央駅から伸びる  
ラムダク通りにも自転車道

中に記載されている戦略は、実に印象的である。持続ある成長のためには、交通システムのさまざまな負の外部効果を抑制しなければならぬ。ただし、陸海空のヨーロッパの動脈としての地位の確保は国富の源泉であり、これを失ってはならない。オランダは、こうした矛盾を解決する重要な役割の一部を、自転車に求めたのである。

オランダの自転車交通やそれを支える施策にもいろいろ問題はあがるが、心身合わせた健康増進に役立つうえに経済的であるとして環境にも優しい自転車をもっと利用することは、色褪せた過去への郷愁ではなく、環境の世紀といわれる21世紀にふさわしい新しい価値の創出につながるはずである。

## 電柱なくす新計画がスタート!! 約220箇所・250km 5年間で九州地区

安全で快適な通行空間の確保、都市景観の向上、地域活性化等を推進するために国土交通省と関係省庁、関係事業者が平成16年4月に電線類地中化推進検討会議を開催し、無電柱化を推進するための計画として「無電柱化推進計画」をとりまとめました。

九州地区内においても、無電柱化を推進するため、市街地の幹線道路、県庁所在地等の主要都市、歴史的景観地区等において今年度から5年間で約220箇所、約250kmを整備していきます。

久留米・梅満地区 (R209号)



施工後 施工前

自然公園の防護柵を変更した例  
鹿児島・桜島地区 (R224号)



施工後 施工前

## 道路のガードレール美しく 景色と調和するよう 色も形も

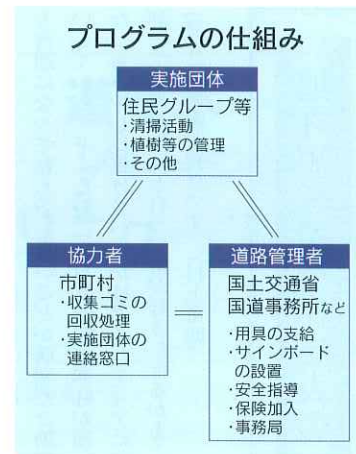
道路の防護柵(ガードレール)は、運転を誤った車の道路外への逸脱を防ぐことが主な目的であり、色については、視線誘導のために白色を原則としてきました。

しかしながら、21世紀の「美しい国づくり」を進め日本の魅力を高めていくためには、周辺の景色や街並みと調和させることが必要となっています。

防護柵の設置基準は景観に関する改訂が平成16年3月に行われ、自然公園・歴史的な街並み等、景観的な配慮が必要な箇所は、周辺の景色と調和するよう色・形を検討して設置していくこととしています。

## 道路ボランティア活動を 応援するボランティア サポートプログラム

「ボランティアサポートプログラム」は、みなさんで使う道路を大切に利用していただく試みとして道路ボランティア活動を応援する制度です。実施団体・道路管理者・協力者の3者が協定を結び、道路に関するボランティア活動を続けていくだけを行うことができます。なお問い合わせは各国道事務所道路管理課まで



## ボランティア・サポート・プログラム 実施団体数(H16・3・31現在)



## 道に関するご相談・ご質問は 何でも「道の相談室」まで

九州内の道路に関するご意見・提案・相談を受け付ける窓口として「道の相談室」があります。相談内容により後日関係機関からの回答となる場合があります。

- 九州「道の相談室」(毎日24時間受付)  
フリーダイヤル0120-1006-497  
FAX 092-476-3514
- 一般回線
- 福岡県.....092-632-7143
  - 佐賀県.....0952-29-2511
  - 長崎県.....0958-21-7312
  - 熊本県.....0963-87-6363
  - 大分県.....0975-37-7206
  - 宮崎県.....0985-29-3854
  - 鹿児島県.....0992-13-8113
  - 福岡市.....092-711-5193
  - 北九州市.....093-582-3895
  - 福岡北九州高速道路公社.....092-631-3284
  - 福岡県道路公社.....092-641-0129
  - 日本道路公団九州支社.....092-762-0333
- ※受付時間(午前9時30分～午後5時まで)  
(土・日・祝祭日・年末年始を除きます。)

ROAD Q&A  
の相談室  
KYUSHU ROAD  
「道の相談室」は平成16年4月1日(木)より24時間、毎日受付です。  
相談対象は「道路」です。  
九州「道の相談室」  
0120-106-497  
FAX 092-476-3514



# 道の声 人の声

「道の声・人の声」は読者のみなさんの投稿欄です。ご自由に意見や感想、「道守通信」の感想などを郵便または「道守」ホームページの投稿メールでお寄せください。字数は200〜300字程度、写真も受け付けます。採用分には記念品を差し上げます。

## 地域活動って 奥深いんですね

「あつてあたりまえ」と思っていた「道」。こんなに真剣に考えている人たちがいることを改めて知りました。「道路がひずんでハイヒールでは歩きにくい道だなあ」とか、「違法駐輪で通りにくい道だなあ」とか感じたことはあっても、だからそれをどうにかしようとか自発的に思ったりすることはなく、それを行動にうつしている人たちがいるということさえも考えてみませんでした。

各地のボランティア活動の紹介を読み、その土地を愛して、住みやすい町づくりをしている人たちが意外と多いことも今知りました。地域活動って奥深いんですね。ドライブの時だけでなく、自分の日常生活でも視野が広くなりそうです。これからがんばってください。(大隈多恵)

## 昔の道に 若かった頃の思いを馳せる

道守通信を楽しく拝見。皆様の道へ対する暖かな思い様々な取組み、道を愛し守り続けている方々がいらつしやるのだと、あらためて気付きました。

若かりし頃、年の離れた結婚前の夫と二人、九州各地を車で訪れたものです。予定も立てずに、ふらりと出かけ、時には目的地を変更する気ままな日帰り旅行。私が地図を見る係ですが、道は主人の頭の中にあるらしく、ほとんど必要ありませんでした。「どこへ寄つていいか」今日はこ

ちを通つてみよう」という言葉に私はただうなずくだけ。

主人も昨年、定年退職し、老いた二人でおだやかな日々を過ごしております。道も便利になり、昔とは大分様変わりいたしました。昔と変わらずそこにあるであろう道に、若かった頃に思いを馳せることでしょうか。主人に「ふらりとドライブにでも連れていって下さい」と、ねだつてみようかと思ひます。(印藤良子)

## ボランティアの生の声をもっと聞きたい

「道守とは何だろう」と思いましたが、中身を見て納得しました。非常に良いネーミングだと思います。

ボランティアには興味があったのですが、毎日の忙しさにかまけて参加する機会を見つけれずいました。このような広報誌が私たちの家族(妻・子供たち)で見られるようになれば、家族みんなの話題になるし、行動も出来るような気がします。「自分出来るボランティアとは何だろう」と意識して生活出来るのではと思います。

ボランティア活動をしている人たちの生の声をもっと聞きたいと感じました。私のように何もしていないものにとつて共感できると思います。「街道を行く」にはもっといろんな情報を盛り込んでほしい。

一人でも多くの方が「道守」を考えることができる意義のある冊子です。次号を楽しみにしています。(48歳・会社員)

# 「道守九州会議」からの お知らせ

## 「道守体験事業」にチャレンジしませんか?

参加団体を募集 締め切りは6月25日

道守九州会議は、「道」にかかわるボランティア活動など道守活動をより多くの人に体験していただく、「道守体験事業」に取り組まれるグループや団体を募集しています。

「道の清掃や美化、植樹・植栽などに参加してみたい」という方々を受け入れて一緒に活動し、実体験の場を提供できるグループや団体が対象です。

実施時期は特に制約はありませんが、道路ふれあい月間であり、子どもたちや学生が夏休み中でもある8月を中心に夏から秋にかけて行われるものを今回募集の対象としています。

「道守九州会議」では応募グループ・団体の「道守体験事業」事業計画(体験活動の内容、実施日時、集合場所、その他留意事項など)などを集約し、関係行政機関と連携しつつその活動の紹介や参加呼びかけのお手伝い、活用できる各種サポート制度の紹介などを行います。

また「道守体験事業」の様子を広報紙「道守通信」やホームページで紹介します。詳細は道守ホームページ <http://www.michimori.com/> をご参照ください)

・募集期日 平成16年6月25日まで

・問い合わせと申し込み先 道守九州会議事務局

(社)九州地方計画協会内 TEL092-473-1057 [担当 廣瀬、山田]

## 「道守パネル展」を九州各県の「道の駅」で開きます

6月下旬スタート、8月「道路ふれあい月間」まで

道守九州会議は「道」にかかわるさまざまなボランティア活動などに取り組む「道守」活動を紹介する「道守パネル展」を九州各県の「道の駅」で開きます。

私たちの暮らしに密着した公物「道」に市民がどう関わっていくか、あるいは、市民と行政との協働の意義や可能性をより多くの人に知っていただくのが目的です。国土交通省九州地方整備局など関係行政機関や九州・沖縄「道の駅」連絡会と連携して実施します。

開催時期は6月下旬から道路ふれあい月間の8月末まで。九州各県毎に3カ所程度の道の駅で巡回展示します。展示期間は各駅3週間程度です。



## 道守ホームページが リニューアル!

<http://www.michimori.com/>

九州各地で展開されている道守のみなさんの活動や交流・連携の動きを紹介しています。リニューアルでは動画が増えるほか、投稿欄も充実します。道に関わる人、関心のある人、だれでも気軽に参加できます!

## 入会申し込み 問い合わせ

(社)九州地方計画協会内  
「道守九州会議」事務局

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL 092-473-1057 (代)  
FAX 092-475-0533  
(ホームページも参照ください。申し込みも可能です)

■e-mailアドレス  
[michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)

郵便の送り先は  
〒812-0011 福岡博多区博多駅前1-19-3  
(社)九州地方計画協会内「道守九州会議」事務局  
ホームページは <http://www.michimori.com/>

## 自分の町が 好きになるかも...

私の住む町は、人と車と自転車がひしめきあっている。歩道がないので時間帯によっては大変な渋滞。みんな急いでいるので絶対譲らない。それも普通になつて私も譲らないことが勝利だと勘違いしていた。そんな時このHPを見て興味を湧いた。もう少し見続けていつかはボランティアに参加してみたらもっと自分の町が好きになるかも...  
「道守」、素敵なきです。(村上童助)

## 道守短歌優秀作を表彰

最優秀作に森川さん  
優秀作に山崎さん、権藤さん



「道守九州会議」発足を記念する短歌の表彰式が2月25日、道守九州会議設立総会の席上で行われました。最優秀作の森川有さん(東京都)写真、優秀作の山崎源太郎さん(福岡県二丈町)権藤美津子さん(北九州市)の3人が表彰されました。

## 歩く道にも 関心が湧いてきました

前略 先日は「道守九州会議」でお世話になりました。わけも分からずに参加した私に親切にしてください感謝です。初めて訪れた九州ですが、とても良い思い出になりました。道のこともまったく知らなかったのですが最近自分の歩く道にも関心が湧いてきました。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。暑い日を楽しんでお過ごしください。森川 有

乱反射するひかり、ひかり  
土壁を伝って歩けば霞みゆく風景  
はるの匂いのなかへ

(道守短歌応募作品が最優秀歌に選ばれ、設立総会で表彰。東京から来福されました)

## 投稿 道守短歌のご紹介

※ 優秀作・入選作は創刊号で紹介しました。応募作品を随時紹介します。

これまでに歩いた道と  
未来にと向かう道は君に守られて

(神奈川県 本所飛鳥)

朝焼けの人もまばらな通学路  
火ばさみ片手に歩く老人

(熊本県 池田豊子)

道そうじ出かけし夫に  
「気をつけてね」声かけ心も日本晴れ

(福岡県 青木千又)

子兔が出たと思うに  
狸が出る峠の道に孫の喜ぶ

(大分県 足立栄子)

高原に咲くのが似合う  
ヒゴタイの玉なす花はうすい紫

(大分県 谷瀬和子)

## 「道守通信」編集後記

▼「道守通信」の編集委員にどういったわけが任せられて参加した編集委員では、他の委員達の発行への熱情、その背後にある「道」への思い入れに圧倒された。そうした人達のいる九州の明日は明るく楽しい、という思いを強くする経験であった。

大学に籍を置く編集委員の役割は、道守通信の情報交換の場であるこの道守通信に、ひいては道守活動そのものに、学生という若い力を引き込むことである。そうした視点に立つて、今後の企画に取り組んでいきたい。(編集副委員長・井上信昭 福岡大学工学部教授)

▼最近、運動不足解消のために早朝ウォーキングに励む毎日である。自宅から江津湖までの往復1時間は、鬱蒼とした林あり、道端に咲き乱れる草花あり、水辺にたどり着くと魚や鴨が泳いでいるという、都市部でありながら、得がたい癒しが満喫できる時間帯。ただ残念なのは、時々動物の排泄物がごろがっていること。さすがに朝が台無しにならないよう、道守の活動も「犬の散歩のマンナ」まで考えなくては。(編集委員・中村幸子 熊本県の道を語る女性の会代表)

▼「道守九州会議」の創立から参加させていたで、道路行政以外の方々、これほどまでに道を大切にされ、道のあり方、造り方に対して様々な思いをお持ちであることを知り、深い感銘を受けています。「道守通信」の編集会議を楽しみながら、市民の方々の活動や道への想いを交換し、今まで以上に道に親しみを感じ、行政との距離が近くなり、信頼関係が築ければと願っています。(編集委員・岡本博 国土交通省九州地方整備局道路部長)





旅人の馬をつなぎし旧街道  
並木残りて木洩れ陽あそぶ

権藤 美津子

撮影地：北九州市八幡西区東曲里町(旧長崎街道)



広報誌「道守通信」夏号  
平成16年5月25日発行

- 発行「道守九州会議」
  - 事務局 (社)九州地方計画協会内  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533
  - 「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>
  - e-mailアドレス [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)
- 定価 300円 (消費税を含む)